

欧米諸国の感染拡大鈍化の兆候

ポイント① 新規感染者確認数が頭打ち

欧米諸国では、3月中旬ごろから新型コロナウイルスの新規感染者の確認数が急増しました。しかし、図1が示すように欧州主要国では4月初め以降、確認数が頭打ちになったように見受けられます。米国では全体として頭打ちになったかは明確でないものの、感染の中心地となっているニューヨーク州では感染拡大ペースが鈍化しつつあるようです。各地で人々の移動や行動を制限する措置が取られていることの効果が、出始めたものと見られます。

ポイント② 行動制限措置緩和は困難

ただ、欧州主要4か国合計や米国では1日に万単位の感染者が確認されています。まだ行動制限措置の大幅緩和は困難であり、経済活動が落ち込んだ状態が続くでしょう。

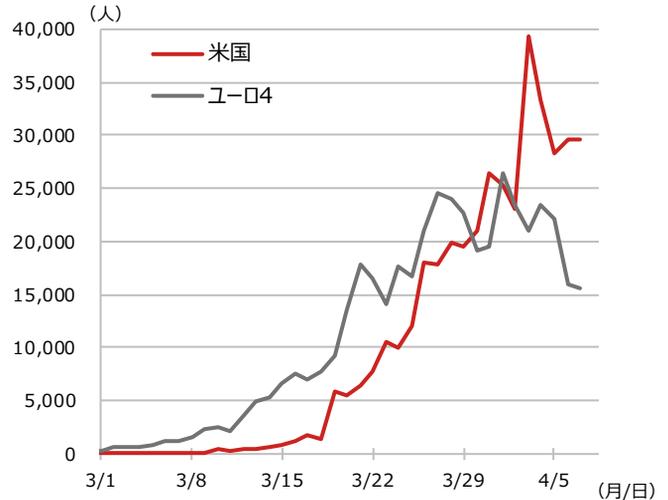
これまでに発表された各国の経済指標では、3月後半以降の経済活動の落ち込みがまだ反映されきれていないものと見られます。今後発表される指標の動きには注意する必要があります。

ポイント③ 経済対策が市場を支える

金融市場では、株式などのリスク資産の価格は2月下旬から大幅に下落しましたが、3月下旬から持ち直しています。米国の株価変動に対する市場のリスク織り込み度合いを示すVIX指数は、一時歴史的な高水準まで上昇しましたが、徐々に低下しています。市場が落ち着いてきたのは、各国の財政・金融両面の景気下支え策が効いているようです。景気自体はすぐに回復しそうにはないものの、感染拡大鈍化の兆候が出てきたことで景気の一段の下方リスクが軽減され、リスク資産の価格は変動を繰り返しながらも徐々に回復に向かうのではないかと考えられます。

図1：米欧の新規感染者確認数

期間：2020年3月1日～2020年4月7日、日次



(注) ユーロ4はドイツ、フランス、イタリア、スペインの合計
(出所) 日本経済新聞サイトより野村アセットマネジメント作成

図2：S&P500株価指数とVIX指数

期間：2020年2月3日～2020年4月8日、日次



※VIX指数：株価の先行きにどれほどの振れ幅を投資家が見込んでいるかを示す「株価変動率指数」のうち、米国株を対象にした指数のこと。「恐怖指数」とも呼ばれています。通常、株安が懸念される局面で上昇し、20を超えると不安心理が高まっていると解釈されています。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月15日 米小売売上高、米鉱工業生産指数 (3月)
4月17日 IMF (国際通貨基金) 世界経済見通し発表頃